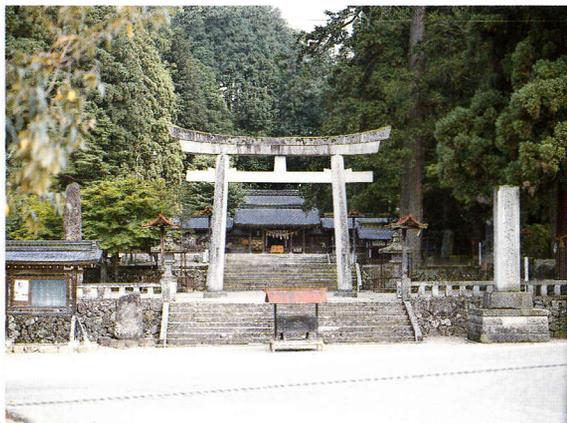




# 飛騨一宮水無神社の概説



## 主なる祭祀

除夜祭	大板式	第二回献穀祭	新嘗祭、献穀祭	七五三祭	蚕糸農業祭	風神祭	大板式(夏越祭)	例祭	分社、縁社祭	撰社、末社祭	雛祭、養蚕祭	祈年祭	節分祭	歳旦祭
								神幸祭	试楽祭					
十二月三十一日	十二月三十一日	十二月三十一日	十一月二十三日	十一月十五日	十一月八日	八月二十三日	六月三十日	五月二日	五月一日	五月一日	四月三日	三月二十五日	二月立春前日	一月一日

## 鎮在 地



※定期バス…高山駅より10分(6km)

岐阜県高山市一之宮町五三三番地  
**飛騨一宮水無神社社務所**

電話(〇五七七)五三三二〇〇番

ひだ一ノ宮駅より徒歩にて五分程

(千五〇九一三五一一)

## ◇御祭神と御神徳

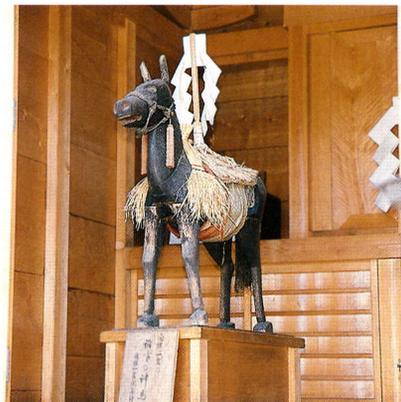
水無神として、御年神を主神に外十四柱を祀る。水無神の名はすでに延喜式に記され、清和天皇の貞観九年（八六七年）從五位上の神位を授けられた国幣社で、代々飛騨一宮と称し、飛騨国中の宗祀と仰がれた。

表裏日本を二分する分水嶺に座して、水源と交通の要衝を鎮め「作神様」としても美濃、信濃、越中など広い地域にわたって農業を奨励し民生の安定を進められた神様で、縁故地に多くの分社を擁する。従来より御神徳を慕って、開運厄除、交通安全、商売繁昌、学業成就、安産、初宮詣などさまざまな願をもつて参拝する人が多い。

他に飛騨国中の産土神八十八社を鎮祭する撰末社がある。

## ◇神馬

稲喰の馬という木造の神馬二頭が神馬舎に安置され、左甚五郎の作といわれる黒駒は極めて素朴な製作であるが、両眼がくり抜かれている。秋の刈入時になると毎夜田圃に出て稲を喰い荒すので両眼をくり抜いたところ、それ以来野荒しが全くやんだという。そして、その神馬の解体は破損しなければ不可能であるといひ伝えている。



## ◇御由緒

古来、飛騨国一ノ宮として名高く、創始年代は神代にありと社伝にもあるが詳らかではない。

史上にあらわれるのは平安初期、貞観九年（八六七年）神位を授けられた記事にはじまる。中世鎌倉時代には社領は付近十八ヶ村に達し、社家十二人と社運が隆盛であったが、戦乱にかかわって荒廃をみた。江戸時代に入って歴代の領主、代官、郡代（天領時代）の尊崇をうけ、また、一般庶民の厚い信仰にさええられ、明治四年五月十四日、太政官布告によって国幣小社に列せられ、昭和十年より国費をもつて十年の歳月を要する造営がなされ今日の社殿が完成した。

昭和二十一年二月官制廃止後は神社本庁に所屬し現在におよぶ。

社名の水無は「みなし（水成）または、「みずなし」とも読み、俗に「すいむ」と音読することもあるが、水主の意味である。社前を流れる宮川の川床がさがり、流れは伏流して水無川となり、水無川、水無瀬河原、鬼川原（覆ヶ川原）の地名となっている。

この宮川の源流位山は日本を表裏に分ける分水嶺になっており、水主の神の坐す神体山として当神社の奥宮と称している。この霊山には一位（櫨）の原生林があり天然記念物とされ、平治元年（一一五九年）には飛州一宮神主から位山の一位の御笏を献上したことがみえるのをはじめ、一宮神領、位山の一位をもつて謹製した笏を歴代天皇御即位に献上するのが例となって今日に至っている。



奥宮(位山)

◇ひなまつり

(四月三日)

春のおとずれの遅い飛騨は一月おくれの「ひなまつり」を迎える。当日は飛騨一円から選ばれた美女達が生きびな様として祭りの主役をつとめ神前に奉仕する。それは十二単に身をつつみ、とおく平安絵巻をしのばせる全国でも珍しい伝統行事として県内外からの参拝者を多く集めている。この祭には協賛して特産品販売などもおこなわれます。



◇島崎正樹宮司歌碑

島崎正樹は、明治の文豪藤村の父である。明治七年十一月十三日水無神社宮司として赴任し、学問、詩歌の道にもすぐれ在任中高山中教院の教導職(中講義)として多くの若者を指導した。彼は藤村の著書「夜明け前」の主人公青山半蔵その人であつて、宮村の晩秋を詠める短歌一首が碑となっている。

きのふけふ

しぐれの雨と

もみぢ葉と

あらそひふれる

山もとの里



◇特殊行事

飛騨人の総氏神である一宮水無神社の例祭は、古くは陰暦八月十五日、明治以降は九月二十三日に行われていたが、昭和三十六年より五月二日に執り行われる事になり今日に至っている。其の祭礼には、氏子の人達によりつぎのような特殊神事が奉納され、当社で醸造された濁酒が一般参拝者に授与される。

一、神代踊り(県指定文化財)

当社独特のもので起源は明らかでない。田楽の転じたもの或は、飛騨楽など膾炙されている。踊子は男子で服装は黒紋付に羽織、角帯姿で袴を着けず、白足袋、紙緒草履、菅の一文字笠で踊る。それに四人の女装した上臈が加わる。

二、鬮鶏楽(鳥毛打)

俗称「カンカコカン」とも云い、当社を源流として、飛騨一円に伝承している特殊神事芸能である。

三、獅子舞(伊勢神楽)

飛騨各地で奉納されているものの代表である。



## ◇白川神社

合掌造りの里、白川村は、最近（明治時代）まで大家族制が残されていた最後の秘境であった。この白川村の尾神、福島のは昭和三十三年電源開発のため御母衣ダムの湖底に沈み、その産土神が、祖先の地を失い、永遠に離れ、しかも離散することになった氏子達により、此処飛驒の神々の総座の地に遷され昔を偲ぶよすがとなった。



## ◇大原騒動大集会の石碑と

### 非業の死を遂げた両神主の墓

大原騒動は飛驒一円をまき込む日本近代史に残る一大農民一揆であり、農民哀史でもあった。この一揆の悲しい終焉の地になった当神社は農民最期の誓として大集会場になり、其の鎮圧にむかつた捕吏によって凌辱され、神主ともども大きな犠牲を払った。



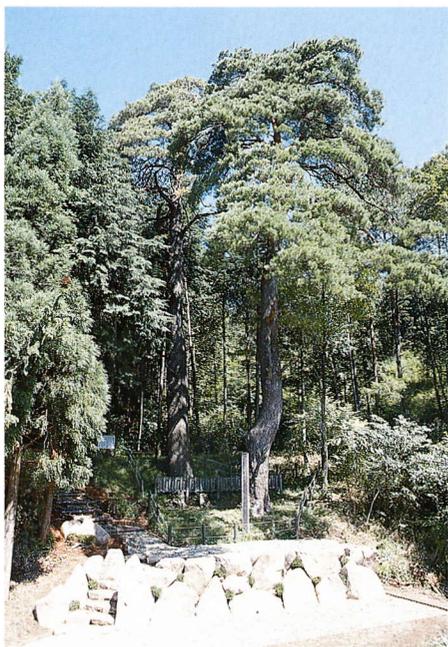
## ◇大原郡代父子寄進石灯籠

安永騒動（百姓一揆）を鎮圧した大原代官は、其の功により布衣郡代に昇進したが、騒動鎮圧で非業の死を遂げたり遠島追放で多くの犠牲者を出し、又、新検地によって重税に苦しむ農民のうらみをかき、晩年はみづからも眼病をわずらうなどして神仏に頼る日々に、安永八年（一七七九）に灯籠一対を寄進したので今に遺る。



## 両神主の墓

伝えによると両人の遺族が重刑（磔）に処せられ梟首になった父の首を夜半そと持ち帰りここに葬ったとされる。



## ◇絵馬殿

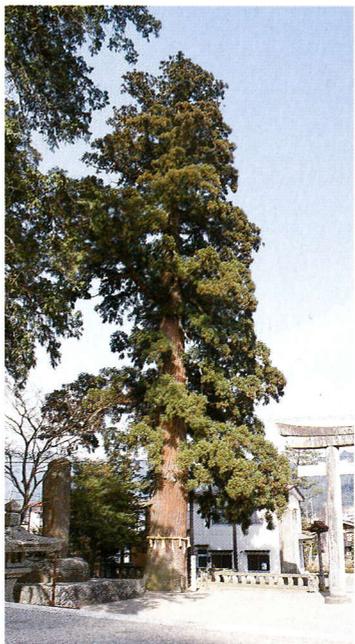
棟札は慶長十二年（二六〇七）、高山城主金森長近の寄進によるものが初見で、安永七年（二七七八）大原騒動で当神社神主山下和泉、森伊勢両名が処刑（磔）改易されるや、信州より梶原伊豆を迎え、其の復興をはかり従来の両部神道より唯一神道に改め社殿も一新したが、拝殿（絵馬殿）のみは取壊しをまぬがれた（紙魚のやどり）。やがて、明治の官制時代を迎え、時の高山県知事宮原積は飛騨國中より醸金を募り社殿の造営をおこない従来の入母屋造りに代え神明造りに統一した際、不釣合いとなつて取壊されたが氏子達はこれを惜しみ保管。明治十二年（一八七八）浄財を募つて元の位置に復元したが、昭和二十九年（一九五四）境内拡張のため、かつての社家跡（山下和泉家屋敷）に移築され現在に至っている。大原騒動安永二年（一七七三）飛騨の百姓一揆と因縁のある遺構が此処に建つのも一つの奇縁と言えよう。



## ◇水無神社の大杉

（県指定天然記念物）

樹齢凡そ八〇〇年、この大杉（老杉）は、神杉として郷土の歴史とひとのいのちについて声なき声をもつてかたりつづけている。



## ◇ちばかの桂

樹齢凡そ五〇〇年、目通り九メートル、榎木といわれ、又その昔、宝をうめたしるしとも、恋の標結とも伝える。

後れ居て恋ひつつあらずは

追ひし及かむ

道のくまみに標結へわが背

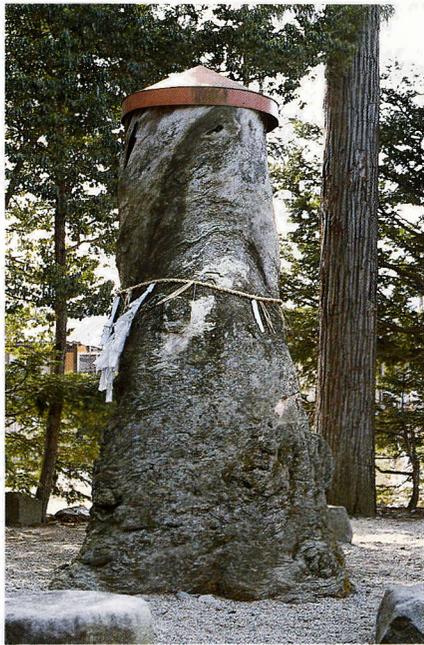


## ◆ 掘 の 木

昔境内大鳥居の横に目通り径一メートル五〇、高さ数十メートルもある松の大樹があり、社家や民家の日蔭になるので里人たちが伐って普請に使おうと相談して、いよいよ斧入れをすることになった。すると、一夜の中に幹はもとより梢に至るまでねじ曲ってしまった。里人は驚いて伐木を止め神に詫びたという。

又、今から二〇〇年前の明和九年八月十八日に大洪水があった。宮川筋には非常に被害があった。高山市の中橋は流失し、市内だけで家屋や土蔵が八九棟も流された。その年の十一月十六日に安永と改元されたが飛騨では元伐山が休山となり、その翌年は幕命で地改めが行われることになった。それに反対して起ったのが大原騒動で、そのため中橋の架替がおくれ、漸く五年目の安永五年に従来の手すり橋から高欄擬宝珠の大橋ができたのである。時の代官大原彦四郎は、その工事にあたり宮村へ一の宮の大松を橋材としてさし出すよう命じた。しかし騒動で多くの犠牲者を出した村人は素直にさし出すことをいやがった。そこで氏子の中に気転のきく者がいて有名な掘の木を示し、神意で一夜の中にねじれてしまいましたと復命したので、杜のほかの松も伐ることが沙汰止みとなった。

その後この掘の木は枯れてしまったが、いわれのある木であるとして枯れたまま保存。昭和二十九年絵馬殿の移転によって現在地に移し保存されている。



## ◆ 熱田神宮の御動座(戦時中の疎開)

大東亜戦争が熾烈になり、戦禍が本土におよぶようになった。昭和二十年（一九四五）七月より敗戦に至る僅かの期間であったが、戦禍を避け関係者により密かに御動座（遷座）にされたことは有史以来のことでもあった。

## ◆ 御旅山（神楽岡）

御座山ともいわれ、神体山・位山の遙拝所とされ、古墳状の人工丘をなしている謎の多い丘陵である。

春は、つつじが咲き乱れ、四季松籟の緑陰に囲まれ宮盆地を一望にできる展望台でもあります。五月二日の例祭には当神社の御旅所として御神幸があり、伝承芸能の神代踊り、鬨鶏楽、獅子舞の奉納のほか、名物のどぶろくが参拝者に振る舞われます。



## ◆ 銀杏の木（公孫樹）——天然記念物——

樹齢凡そ八〇〇年、乳頭が垂れ、やさしい母親の傍があり、樹幹にイチイ、ナラ、ケヤキ、クルミなどのやどり木を抱き、古来より子授け、安産、縁結びの御神木として靈感を授かる人が多い。

